

南九州市地域おこし協力隊 活動報告書

2017.9月

受入先	市役所 ふるさと振興室
役職	移住コーディネーター
隊員氏名	かわぐち とうこ 川口 塔子
着任日	平成29年4月1日

～ 主な活動 ～

1. 移住者受け入れを“地域”で考える「ぼたぼた会ぎ」を実施しました。
2. 知覧茶の郷づくりプロジェクト委員会・推進委員に着任しました。
3. 地区・小学校運動会で地域の方と交流しました！

1. 移住者受け入れを“地域”で考える「ぼたぼた会ぎ」を実施しました。

地域で、移住者や交流者などヨソの人を受け入れるには、長い時間をかけて心の準備をし、みんなで受け入れる気持ちをつくっていくことが大切だと思っています。そこで、まちの未来を語りながら、移住者受け入れについて語り合う場、「ぼたぼた会ぎ（タウンミーティング）」を企画し、今月はエリアを変えながら3回実施しました。この「ぼたぼた会ぎ（通称：ぼた会）」という名称は、茶のまち・南九州市らしく急須で淹れたお茶をイメージして命名しました。急須で淹れた茶の“最後のひとしずく”は旨味や渋みが、ぎゅっと凝縮した、至福の一滴といわれています。ぼたっ...ぼたっ...としたたる一滴（一言）まで想いや本音を全て出しきり、未来に想いを馳せる会になることを願い、この名称を付けた次第です。

参加者は、先月の本報告書でご紹介した移住者のヨリドコロ project に参画してくださっている川辺商店街のみなさんや、後継者対策や人材育成について一緒に考えている茶業青年部のみなさんです。

「そもそも移住者ってどんな人のこと？」や、「(まちの未来を考えると)どんな移住者に来てほしい？」、そして「そのためには今なにをすれば良いか」等、ワークショップを通して真剣に語り合いました。皆さんの語りを伺っていると、長年住んでいる方でも“言葉遣い(方言)”が異なると、急に距離を感じるなど、“ヨソ”という線引きが様々かつ曖昧であることがよく分かってきました。

地域側の考えやニーズを伺うことで、移住者が地域に溶け込むコツや心構えを定義することができます。今後もこの会を重ねていき、受け入れ基盤をつくりながら、移住者向けのメッセージをまとめていければと考えています。

みなさんとこの「ぼた会」でお会いできる日を楽しみにしています！



2. 知覧茶の郷づくりプロジェクト委員会・推進委員に着任しました。

昨年度から茶業振興会事業として発足している「知覧茶の郷づくりプロジェクト委員会」の推進委員に着任しました。本プロジェクトは、茶産業を中心とした農業・商業・観光一体となった地域づくりを目指して協議を行い、茶業振興会に提案をすることを目的とされています。

今後、私が着手する茶をはじめとした、基幹産業の後継者対策についても、この場で意見交換、提案ができればと思っています。

3. 地区・小学校運動会で地域の方と交流しました！

9月24日（日）、南九州市内では地区・小学校の運動会が実施されました。当日は、あいにくの大雨でしたが、練習時から地域の方や、子どもたちと沢山交流ができました。移住者の私にとって、小学校と地域の運動会が同時に開催されるのは、初めての経験です。単身者の私も、ひとりの保護者のように、子どもたちのかけっこや、演技を楽しみにしていました。そしてこの運動会を通して、子どもたちが地域に守られ・育てられているのだと、改めて実感しました。

自治会対抗競技のために、当日までに数回の練習が組まれていることにも、初めはビックリしましたが、その分、地域の方と深く交流する機会になり、とても楽しい思い出ができました。

来年こそは晴天に恵まれることを期待したいと思います。



▲練習の様子。気が付いたら、子どもたちのかくれんぼの仲間入り。



▲自治会対抗100メートル走の様子。大雨の中の真剣勝負でした！